開示

教　育　委　員　会　定　例　会　議　事　録

令和８年１月２７日　午前１０時００分　開会

出席委員

教　　育　　長		大　江　孝　一
委　　員		戸　苅　恵理子
委　　員		佐　原　圭　子
委　　員		山　田　清　志
委　　員		池　田　洋　子

説明のための出席者

教育部長	髙　橋　純　司
教育部次長	星　野　光　広
教育部次長兼学校教育課長	加　藤　正　明
教育部次長兼中央図書館長	坂　田　憲　美
庶務課課長	杉　浦　忠　彦
学校教育課主幹	齋　川　　浩
生涯学習課長	渡　辺　寿　彦
スポーツ課長	二　村　　崇
学校給食課長	吉　田　　信
中央図書館主幹	渡　邉　里　恵

教育長が指定した事務局職員

主　　事	山　崎　　修
主　　事	各　務　京　子

議事日程

第１　議事録署名委員の指名
第２　第１号議案　文化財保護審議会への諮問事項について
第３　その他報告　豊川市教職員業務改善プロジェクト２０２６について

「大江教育長」　定刻になりましたので、ただ今から教育委員会を開会し、会議を開催します。はじめに日程第１「議事録署名委員の指名」を行います。本日の議事録署名委員は、教育長において、佐原・池田　両委員を指名いたします。よろしくお願いいたします。

「大江教育長」　続いて、日程第２「第１号議案　文化財保護審議会への諮問事項について」を議題とします。事務局から説明をお願いします。

「渡辺生涯学習課長」　「文化財保護審議会への諮問事項について」を資料に基づき説明。

「大江教育長」　ただ今の提案について、ご質疑がありましたらお願いします。

「戸苅委員」　今回の指定に至る経緯を教えてください。

「渡辺生涯学習課長」　龍源寺には元々県指定文化財の黒門があります。昨年、その黒門を県の委員が視察した際、住職から「山門を修繕したいが、何か補助はないか」と相談があったようです。山門が市指定文化財となれば修繕の補助金を交付することができますので、生涯学習課で専門家とで山門の調査を行いました。結果、十分相応しいという判断になったため、今回の指定に至りました。

「山田委員」　この山門について、今後、県指定文化財になる可能性はありますか。

「渡辺生涯学習課長」　同じ山門として、すでに県指定文化財となっている御津町の大恩寺がありますが、大恩寺の山門は龍源寺の山門よりももう少し古いものです。大恩寺も龍源寺も登記簿上では同じ曹洞宗の関係の二重門となりますので、現時点ですぐに県の指定となることは難しいかと思われます。先ほどの説明にもあった東浦町の乾坤院山門は今回の山門と規模・様式が似ていますが、そちらは町指定文化財になっております。今回も、まずは市指定文化財ということで進めさせていただきます。

「佐原委員」　市指定文化財になると具体的に何がどうなるか教えてください。

「渡辺生涯学習課長」　市指定文化財になると、所有者管理義務が発生します。そのため、修繕や現状変更する際には教育委員会の許可が必要になります。一方で、修繕等を行う際には、100万円までは１／２、100万円を超えた部分については１／３を加算した額（上限300万）の補助金が交付されます。

なお、龍源寺には県指定文化財の黒門を始め、他にも多数の市指定文化財を所有されているため、それらも含め、多くの方に見ていただけるよう、今後はＰＲ活動も行ってまいりたいと考えております。

「大江教育長」　他になければ採決を行います。本案は原案の通り可決することにご異議はございませんでしょうか。

（異議なしの声）

「大江教育長」　異議なしと認め、日程第２「第１号議案　文化財保護審議会への諮問事項について」は原案の通り可決されました。

「大江教育長」　続いて、日程第３「その他報告　豊川市教職員業務改善プロジェクト２０２６について」、事務局から説明をお願いします。

「齋川学校教育課主幹」　「豊川市教職員業務改善プロジェクト２０２６について」を資料に基づき説明。

「大江教育長」　このことについて、ご質疑がありましたらお願いします。

「山田委員」　時間外在校等時間について、「休憩時間と自己研鑽や自己申告の自主学

習を除く」と説明がありました。休憩時間についてはわかりますが、自己研鑽や自主学習の時間を除くとなると、例えば５時１５分から６時１５分まで残業していた場合でも、そのうちの３０分は自己研鑽だから残業は３０分だけしか認めない、というように、サービス残業が増える可能性はありませんか。

「齋川学校教育課主幹」　残業時間については、客観的なもの、例えば校務支援システムやタイムカードで確認をしていますが、今山田委員が言われた懸念については、導入時からありました。そういうことのないように、必ず実勤務時間で報告するように管理職には指導していますし、教職員も承知していると思います。

「山田委員」　個人的には、明日の授業の準備ではないけれど今後の授業の予習や資料としての本を読むような自主学習が、ただ学校に遅くまでいただけと見なされてしまうのはどうなのか、と感じます。在校していたら、その理由の如何は問わず、一律で時間外在校時間とする、くらい運用のほうが良いのではないでしょうか。正しく運用されているのであれば良いのですか。

「池田委員」　今は昔と違って、働く側の意識も変わってきていて、用事がなければ帰ろう、サービス残業をやらずにさっさと帰ろう、という人が多くなっていると思います。学校にいる時間は何をしていても在校時間になるとしてしまうと、とにかく早く学校から出なければ、という意識になってしまい、ちょっと雑談するといった先生同士のコミュニケーションもなくなってしまうかもしれません。私はそこまで“いる時間”にこだわる必要はないと思います。

「佐原委員」　企業も残業するなと言いますが、その結果、退社はするけれど、仕事は家に持ち帰るという隠れ残業になってしまう場合もあります。そうなってしまっては本末転倒なので、資料８ページにあるように、『学校ができること』・『職員ができること』・『教師がやること』をちゃんと分別してやったほうが、時間に限られずにやれるのかと思います。

一方で、先ほど、研修等はオンラインを活用する、という説明もありましたが、そこはあまり賛同できません。研修の場で先生同士がコミュニケーションをとることは、単に情報共有を行うだけではなく、メンタル面にも関わってくるような大きな意義があると思います。

「齋川学校教育課主幹」　オンライン活用について、全ての研修・会議をオンラインにするわけではありません。佐原委員がおっしゃるとおり、顔を合わせての情報交換や交流は大事なことだと考えておりますので、全てを効率化してオンライン会議にするという考えではありません。例えば、オンラインを活用すれば、今まで会議会場まで移動していた時間分を子どもと接する時間に変えることができます。そうした、子どもを支援する時間の確保を重要視しながら、移行できるものを移行していきたいと思います。

「戸苅委員」　資料１０ページに“豊川市長期休業短縮期間を実施します”という記載がありますが、これは具体的にどういう意味でしょうか。

「齋川学校教育課主幹」　現在ほとんどの小学校が、週１回５時間授業を行っていま

すが、一部の小学校で３学期以降などに４時間授業の日を設定し、児童を早く帰宅させることで授業以外の時間を確保する、という工夫をしています。ただし、これを中学校で行おうとすると、卒業の早い３年生がどうしても授業時間が足らなくなってしまいます。そこで、夏休みを早めに切り上げることで、授業数が不足しないように調整していくということです。

「佐原委員」　授業時間が減ることに対して、放課後教室等との連携はとっていますか。

「齋川学校教育課主幹」　他課が行っている事業との連携については、この話を進めていく上で何度も話題になりました。子育て支援課の予算にも影響することですので、今後しっかりと話を詰めていかなければいけないと思っています。一度決定したから今後はずっとそれでやっていく、ということではなく、ＰＤＣＡサイクルに則った改善が必要になると考えています。

「山田委員」　資料表記の問題かとも思いますが、７ページの構造図の下段に“自立した学習者の育成に関すること”とあります。ここが一番大切かと思いますが、説明部分を読んでみると、業務改善が一番に記載されているので、『自立した学習者を育てるのは、自主的に勉強する子が増えると先生が楽になる』というようにも読み取れる気がします。“自立した学習者の育成”という大きな柱が、何か道具のように表現されているのが気になりました。

それから、Compass２６の説明の中で、第１段階としてこれ、第２段階としてこれ、という方針が示されていました。技術的に段階を決めて進めていくことは良いことだと思いますが、それが「貴方の授業はこれができていないからダメなんだ」という否定的な意味に使われなければ良いと思います。こういうやり方もあります、こうするともっとよくなります、のように、プラスでの指針が示される提示の仕方をしていただきたいと思います。

「池田委員」　以前、音羽中学校の研究発表会を見学させていただきました。その時に、児童が自分で学習目標や計画を立てたり、最後の振り返りの時間で達成感や理解度を発表したりしているのを見て、これが自立した学習か、と感じましたが、そこに至るまでの準備はとても大変そうでした。その後、先生たちの学習会・研究会も見させていただきましたが、先生同士の情報交換が頻繁に行われており、一人の授業というよりも、みんなで作っていく授業という感じがしました。

「戸苅委員」　以前“教員の働き方改革”を言われた時に、達成させるまでの期間があまりにも短く、この期間で出来るのだろうかと思いましたが、今回計画も同じようにタイトで、正直、本当に実現できるのか心配しています。今でも夜間に学校の前を通ると、８時や９時でも電気がついているのを目にしていますが、報告に上がってくる数値と照らし合わせると、本当に正しく残業報告がされているのか疑問です。授業の質を下げないで今回の計画を実施していくには、圧倒的に教員数が不足しています。学校 ICT もそうですが、もう少しスペシャリストを増やして、先生たちが安心して授業に取り組んでいける環境作りが大切です。そして、それを達成させるためには、今

いる先生だけでなく、もっと多くの人たちの力が必要です。お金はかかりますが、将来を担ってく豊川市の子どもたちのために、たくさんの人を確保して、先生たちを助けていくような仕組みを作る必要があると考えます。

「山田委員」　授業時間数を確保するために、夏休みを始め様々なものを削っていく必要があり、上手くいった学校の成功例を交換し合うと提案がありました。ですがそれは、ある意味今まで必要があって存在していたものを削るということになるわけです。家庭訪問を削った学校が、それにより何時間か生み出した、という成功例があったとして、それを全学校で、成功例だから真似しよう、となることが良いことかどうか。時間を削るという意味では成功かもしれませんが、例えば家庭訪問をやめたことで、保護者との関係や地域との関係を築けない可能性も出てきます。そういう可能性も含めてよく検討していただきたい。

また、逆に『時間を生み出す』ことでは、教科担任制という提案もありましたが、小学校の、先生が子どもの全人格に関わる良さを、中学校的な教科指導の効率に置き換えていくという判断には慎重であって欲しいと思います。

「佐原委員」　中学校において、部活動が先生方の時間的な負担になっているということを分かった上で、意見を言わせていただきます。就職面接の場において、今でもほとんどの企業から、「部活動は何をやっていましたか？」や「どんなポジションでどんな活動をしていましたか？」と聞かれることが多いです。これは企業側が、上下関係はどうか、チームワークをとれるか、ということを見極めるための質問です。今の若い子の傾向として、自分の主張はしっかりするけれども、目上の人を敬ったり、チームで力を発揮したりというのが苦手な子が多いといわれているので、企業もそういった質問をするのかと思います。部活動では、先輩後輩があり、チーム全体で一つの目標に向かっていく全体としての達成感もありますが、今後クラブチームに移行していくと、個人で頑張るということがどうしても主体になっていくのではないかと危惧しています。

「大江教育長」　そのほかよろしいでしょうか。日程第３「その他報告　豊川市教職員業務改善プリジェクト２０２６について」は以上とさせていただきます。

「大江教育長」　本日の会議に付議されました案件は以上ですので、これで本委員会は閉会といたします。

（午後４時２０分　閉会）

この議事録は真正であることを認め、ここに署名する。

教 育 委 員

教 育 委 員